

地方独立行政法人天王寺動物園の業務実績評価シート

別添

(令和5年度中実績・令和6年度評価)

【大項目評価点】
S：特筆すべき進捗状況
A：計画どおり
B：おおむね計画どおり
C：やや遅れている
D：重大な改善事項あり

【小項目評価点】
V：計画を大幅に上回って実施している
IV：計画を上回って実施している
III：計画を順調に実施している
II：計画を十分実施できていない
I：計画を大幅に下回っている。

【小項目評価（V～I）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
●小項目について、おおむねIIIの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でIV以上の高評価・II以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、中期目標の達成度等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	A	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上 ・ JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理の担当等を受嘱しているほか、令和5年度は第23回種保存会議を開催し、他園との信頼構築に努めている。これは展示動物の計画的な導入・確保にも繋がる取組であり評価できる。 ・ イベント実施や情報発信にあたっては、分析や工夫を行いながら内容の充実を図っている。 ・ 上記より、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	1	前年度の交渉進捗を踏まえた上で、コレクション計画に基づき新規希少動物の導入を目指す。	III	III	・ 項目2（種別管理等の担当・種保存会議の開催）については、2年に1度開催されるJAZAの会議の中でも大規模な会議であり、動物園の中心的な役割である保全活動について議論する、「種保存会議」のホストを法人が担当し、無事開催できたことも評価すべき。また、種別管理等の担当も引き続き熱心に取り組んでいる点も評価すべき。
				2	JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理等を継続して受嘱するとともに、第23回種保存会議をホストとして開催し、種の保存事業に貢献する。	IV	IV	
				3	JAZA、WAZA開催の研究会、地域別会議等に積極的に参画し、得られた情報を共有する。	III	III	
				4	昨年度の検証を踏まえイベントを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容やイベントに関する指針に反映させる。	III	III	
				5	昨年度に実施した近隣商業施設や交通機関等との連携イベント等の検証を踏まえた取り組みを行うとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容や前項指針に反映させる。	III	III	
				6	広報戦略（令和3年度策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。	III	III	
				7	多言語化したホームページを継続して更新を行う。	III	III	
				8	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を実施する。	III	III	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	A	・JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理の担当等を受嘱しているほか、令和5年度は第23回種保存会議を開催し、他園との信頼構築に努めている。これは展示動物の計画的な導入・確保にも繋がる取組であり評価できる。 ・イベント実施や情報発信にあたっては、分析や工夫を行いながら内容の充実を図っている。 ・上記より、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	9	継続して、定期点検を実施し、結果の速やかな周知と対応により、美観保持に努める。	Ⅲ	Ⅲ	
				10	園内掲示物整備アクションプランに基づく園内掲示物の点検及び更新を行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				11	ホッキョクグマ舎の実施設計（令和4年度着手・令和5年度完了）を、ユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。	Ⅲ	Ⅲ	
				12	継続して、来園者の声を分析し園運営に反映する。（HP・SNS含む。）	Ⅲ	Ⅲ	
	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	B	・来園者の行動変容に繋がる取組として、ボランティア制度や様々なプログラムを継続実施している。 ・各取組において、アンケート等を実施し、内容の充実を図っていることが認められる。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	13	・新ペンギン・アシカ舎では水中での採餌行動観察が可能になるため、おやつ・ごはんタイムに教育的イベントとしての要素を持たせた解説など新たな取り組みを図る。 ・ふれんどしっぶガーデンのイベントについては、来園者の満足度を把握するアンケート調査を継続し、必要に応じ検証に基づいたプログラムの修正を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				14	教育普及アクションプログラム（令和4年度版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。	Ⅲ	Ⅲ	
				15	新たなボランティア制度に基づくボランティア活動の充実を図る。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	A	・独法化以降、継続的に環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングを着実に実施しており、ソフト面での飼育管理機能の強化に努めていることが認められる。 ・また、動物福祉に配慮した獣舎整備に向けて、現獣舎の補修・点検や新獣舎の整備を実施している。 ・上記より、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	16	令和4年度に共有したヒヤリハット事例をもとに飼育連絡会議などの場を利用し、継続的な安全教育を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	・項目17（環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニング）について、独法化以降大幅に取組種数が拡大している。今後は種数を増やすことによりむしろ、効果の検証を意識してほしい。 ・逸走事故について、当初の提案では項目19で評価していたが、来園者の安全確保に関する項目で評価する方が適切である。
				17	環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングに関する方針（令和3年度策定）に基づき、取り組み中の種について継続実施するとともに、効果を検証し、実施種数を増やすとともに、取組内容の改善を図る。	Ⅲ	Ⅳ	
				18	昨年度作成した新動物病院計画の与条件整理表をブラッシュアップし、令和6年度基本計画発注のための準備を整える。	Ⅲ	Ⅲ	
				19	第1期リニューアル整備事業の計画に応じた設計及び整備を着実に実施する。	Ⅱ	Ⅲ	
				20	維持管理計画や施設管理点検に基づく補修・点検を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				21	動物福祉の観点から策定された「小規模改修計画」に基づき、改修を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
	4 繁殖及び調査研究活動の推進	S	・繁殖に向けた取組をチェックポイントとして見える化し、継続的な効果検証を実施している。その結果、当園では9年ぶりのフラミンゴの繁殖に成功しただけでなく、国内2園目のヨウスコウワニの繁殖にも成功したことから、繁殖技術の向上が見受けられる。 ・法人内で複数の研究を進めているだけでなく、成果がまとまったものについては研究会等で発表も行い、査読付きの雑誌に掲載される等、目覚ましい成長をとげており、国内外の動物園からの信頼向上にも繋がっている。 ・上記より、特筆すべき進捗状況であると判断できることから、S評価とする。	22	繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じてチェックポイントの見直しを継続する。	Ⅳ	Ⅳ	・項目22（繁殖に向けた取組）について、チェックポイントの対象ではないヨウスコウワニの繁殖に向けた様々な取組が成果をあげ、それを発表することによって全国的な模範になるような事例を提供できたことは非常に重要であり、高く評価されるべき。
				23	前年度に成功したオグロヅルの採精手技の再現性確保及び継続的な採取に取り組む。	Ⅲ	Ⅲ	
				24	・ニホンイシガメについては、環境整備ができたことから、繁殖に取り組むほか、保全につながる啓発活動として、企画展を実施する。 ・また新たな取組として、オオサンショウウオの保全につながる取組について計画を策定する。	Ⅲ	Ⅲ	
				25	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、継続的に調査研究へ取り組む。	Ⅳ	Ⅳ	
				26	連携協定に基づき大学・機関との取組を進める。	Ⅲ	Ⅲ	
				27	ホームページ等で大学等との研究機関との協定による研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				28	研究の成果については、研究会等において発表を行う。	Ⅳ	Ⅳ	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
2	1 自律的な組織経営	B	・機動的な組織体制の構築に向けた取組を行っており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	29	各種職員研修において法人の目指す姿を共有し定着化を図るとともにホームページでの情報発信の充実を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				30	法人内でのヒアリング等により組織の役職や人員数の改編・補充について点検し、必要に応じて対応する。	Ⅲ	Ⅲ	
				31	各種業務の実施にあたり、外部の専門人材登用が必要かどうかを検討する。	Ⅲ	Ⅲ	
	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	B	・継続して人材育成にかかる研修等を適切に実施している。 ・インセンティブが適正に働く人事評価制度の確立に向け、現行制度の見直しを進めている。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	32	人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するとともに、必要に応じて方針及び計画を修正する。	Ⅲ	Ⅲ	
				33	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。	Ⅲ	Ⅲ	
				34	資格取得支援の仕組みを浸透させ、必要に応じて支援対象資格を追加する。	Ⅲ	Ⅲ	
				35	人事評価制度を運用するとともに、制度内容を検証のうえ、必要に応じて制度を見直す。	Ⅲ	Ⅲ	
	3 効果的・効率的な業務執行	B	・PDCAサイクルに基づいて各種制度を運用できており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	36	年度計画および中期計画の進捗状況を定期的に市と共有し意見交換を行い、必要に応じて中期計画の変更を行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				37	引き続き、人事財務分野において導入した各種機器の安定運用を図るとともに、担当者変更等に伴う引継ぎを着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				38	昨年度の日常飼育・トレーニング分野における電子カルテへの統合運用が困難となったため、原因課題を整理し、手法を変えて診療記録と飼育記録のプラットフォームを構築する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
3 財務内容の改善に関する事項	1 収入の確保	B	・ファンクラブ会費収入は目標値には達しなかったものの、令和4年度以降、加入者数及び会費収入額は増加傾向にある。 ・また、新規入園者の獲得に向けた広報や企画、渉外活動を着実に実行しており、入園者数はコロナ前の水準に近づいてきている。その結果、前年度より入園料収入、入園料外収入いずれも増加した。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	39	入園料収入4.8億円・入園者数174万人を目標とする。（令和5年度予算）	Ⅲ	Ⅲ	・項目40（ファンクラブ）について、ファンクラブ新規加入促進に関する発信が足りないと思うので、PR方法を工夫し、加入者獲得に繋げてほしい。 ・項目44（オリジナルグッズの開発・販売）については、収入面だけでなく来園者サービスにおいても重要なポイントであるため、今後も売店委託業者と協力しながら記憶に残るような商品を作り出してほしい。
				40	継続してファンクラブ募集に取り組み、会費収入額を前年度比1.2倍を目標とする。	Ⅱ	Ⅱ	
				41	前回クラウドファンディングの検証を踏まえ、次期クラウドファンディングのメニューおよび実施時期を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	
				42	営業実績（令和4年度）の検証を踏まえた営業計画（令和5年度）に基づき営業を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				43	寄附額25百万円（クラウドファンディングを除く）を目標とする。（令和5年度予算）	Ⅲ	Ⅲ	
				44	例年実績と同等のオリジナルグッズの開発・販売、予算の達成（令和5年度予算 7百万円）	Ⅳ	Ⅳ	
	2 経費の節減	B	・光熱水費の削減に向けた取組を実施するなど、経費削減に努めており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	45	今年度オープンするペンギンアシカ舎における水道・電気の使用量について、当初想定している使用量と実際の使用量とを比較し、適切な運用に向け検証する。	Ⅲ	Ⅲ	
				46	法人での獣舎整備が、大阪市直営時代で整備した場合と比べて1割のコスト削減を図る。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人 評価	市長 評価	
4 その他業務運営に関する重要事項	1 内部統制の強化	B	・継続して内部統制にかかる取組を適切に実施しており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	47	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	・リスク管理についてはマネジメントや体制だけでなく、発生した事故等をリスク管理の視点からも評価できるような項目もあればよい。
				48	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				49	規程類について、新規採用者及び転入異動職員に研修する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				50	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				51	コンプライアンス浸透のため、従来の研修のほか強化月間を設けるなど新たな取組を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				52	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				53	内部監査・監事監査を実施するとともに、前年度の改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。	Ⅲ	Ⅲ	
				54	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を検証のうえ、必要に応じて改訂を行うとともに、設立団体並みの研修を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R5年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
4 その他業務運営に関する重要事項	2 来園者の安全確保	B	- 令和5年10月にはチンパンジー逸走事故が発生させ、来園者を避難させる必要が生じた。 - 一方で、老朽化による設備の不具合等が発生したが、随時、対策を行い、来園者の安全確保ができるようマニュアルを改定するなど継続して見直しを続けている。 - 上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	55	今年度、設計若しくは工事を実施する全ての案件において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。	Ⅲ	Ⅱ	項目55（来園者及び職員の安全確保）について、今回発生させた動物逸走は獣舎の隙間からの逸走とのことだが、獣舎の構造にかかる注意事項については、飼育担当者だけでなく施設整備担当者にも理解しておいてほしい。
				56	獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				57	天王寺消防署協力のもと、より質の高い災害訓練を実施する。猛獣脱出訓練についてはより実態に即した設定を構築し、より効果的な訓練を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				58	委託事業者と協力のうえ、引き続き新型コロナウイルスに関する大阪府の方針に基づいた感染対策を講じる。	Ⅲ	Ⅲ	
	3 職員の安全衛生管理	B	現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	59	安全衛生管理体制の確立と職員の健康保持のための取組を進めるとともに健診等を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
	4 環境に配慮した取組の推進	A	継続して環境に配慮した取組を着実に実施しているだけでなく、食品ロス削減に向けた企業からの飼料の受入等新たな連携を実施するなど積極的に拡大しており、計画どおり進んでいることから、A評価とする。	60	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。	Ⅳ	Ⅳ	細かな環境配慮の取組は、生物多様性保全を掲げる動物園にとって非常に重要な項目であり、教育にも繋がるため評価すべき。今後も模範となるような事例を積み重ねてほしい。
	5 情報公開の推進	B	現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	61	業務に関する年報（Annual Report）を公表する。	Ⅲ	Ⅲ	
	6 BCPの策定	B	現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	62	BCPの検討を一層進めるとともにその内容を法人内で共有する。	Ⅲ	Ⅲ	

■全体評価

【市長評価】

全体を通しておおむね計画どおりに進捗している。

新獣舎は令和5年4月に「ペンギンパーク&アシカワーフ」が、11月に「鳥のセカイ」がオープンし、園の魅力向上や入園者数の増加に繋がった。また、能登半島地震で甚大な被害を受けた、のとじま水族館からカリフォルニアアシカ1頭を受け入れ、動物園の立場から被災地支援に協力することができた。

動物福祉向上に関する取組や繁殖等、法人設立時より力を入れてきた分野が成果を上げ、令和5年度はフラミンゴやヨウスコウワニの繁殖に成功した。また、繁殖活動や日常の飼育から得られる知見について情報を整理し各班単位で研究を進め、研究会等での発表にまで結びついていることは、調査研究活動が属人的な活動ではなく組織の活動として定着してきていることを示している。この点については計画より進んでいると評価できる。

一方で、令和5年10月にチンパンジー逸走事故を起こし、来園者の安全を脅かした。これについては対策を講じてはいるが、今後もリスク管理の在り方や安全対策について、検討を継続してほしい。また収入の確保については計画どおり進捗していないところもあるため、ファンクラブ会員数の増加に向けて取り組むとともに、地方独立行政法人であることを活かして寄附等を戦略的に増やすことで魅力的な動物園づくりをより一層積極的に進める努力を求めたい。

【評価委員会意見】

全体を通して、独法化以降、力を注いできた動物福祉の取組が実を結び、多くの成果を上げている印象である。特にヨウスコウワニの繁殖については、国内で2園目という限られた先行事例の中で創意工夫を重ねた結果、繁殖に成功しており、市の評価のとおりである。また、ペンギンパーク&アシカワーフのオープンは多くのメディアに取り上げられ、園の魅力向上に大いに貢献した。さらに、被災園からの飼育動物を受け入れることができたのも、十分なバックヤードを備えた新獣舎があったからこそできたことだと考えられる。

一方で、ファンクラブ会員の増加や収入の確保については、より戦略的な取組が必要であり、今後の積極的な努力に期待したい。

また、当初計画では想定していなかった成果や課題が出た際に、その内容についてアピールや評価ができるような項目や仕組みを、市と法人で協力して検討していただきたい。